

グラウンド・ゴルフ国際大会 YURIHAMA 2016 意見交換会議事録

1. 日 時： 2016年10月1日（土）15：00～16：25
2. 場 所： 国民宿舎水明荘
3. 出席者： 【来賓】 公益社団法人 日本グラウンド・ゴルフ協会 会長、事務局次長

【チーム代表】

韓国：河東郡グラウンド・ゴルフ協会 1名
 済州特別自治道生活体育会グラウンド・ゴルフ連合会 会長、事務局
スペイン：スペイン協会 3名
モンゴル国：モンゴルマスターズ協会 会長
ロシア：モンゴル1名
ポーランド：3名

【関係者】

株式会社アシックス 部長、マネージャー
湯梨浜町グラウンド・ゴルフ関係者 1名

【主催者】

湯梨浜町長、副町長、教育長、生涯学習・人権推進課長、みらい創造室長、企画課 国際交流員、みらい創造室 主事
鳥取県地域振興部スポーツ課 課長補佐、主事

副 町 長： 本日は、グラウンド・ゴルフ国際大会 YURIHAMA2016 にご参加いただき、誠にありがとうございます。ようこそ、湯梨浜町へおいでいただきました。

ただいまより、グラウンド・ゴルフの国際化に向けての意見交換会を始めさせていただきます。

（自己紹介）短い時間ではございますが、ご協力をお願い申し上げます。

今大会には、海外より、韓国、スペイン、モンゴル、ロシア、ポーランドからご参加いただき、誠にありがとうございます。皆さまには、後ほど各国でのグラウンド・ゴルフの現状や将来展望などについて、ご意見をお伺いしたいと存じます。

それでは、まず初めに、この意見交換会の開催趣旨を併せて、湯梨浜町長より皆さま方にご挨拶を申し上げます。

町 長： みなさん、こんにちは。（自己紹介）

本日は、スペイン、ポーランド、モンゴル、ロシアの各チームの代表者の方にお集まりいただき、韓国のもう1チームの方は近くまで来ておられ、もう間もなくお越しになると思います。皆さまをお招きしまして、このような会を開催出来ることを誠にありがたく思っております。

ところで、海外の人を招いてのグラウンド・ゴルフの国際大会は、今年で2年目です。昨年は、第1回目を開催いたしまして、今日お越しのスペインのチーム、そして

上海、台湾、そのような国々からお越しいただきました。昨年は、上海、台湾がそれぞれ60人以上いらっしゃいまして、プレーヤーの数としては今年より昨年の方が多かったのですが、国の数としては、今年は5カ国からお越しいただいたので今年の方が多くなっています。

昨年は、今日お見えの韓国の済州島に行きましたし、上海、台湾に行きました。今年は、実はモンゴルとサイパンに伺いました。モンゴルでは、会長さんがこれからグラウンド・ゴルフを広めたいという気持ちを持っておられまして、このたびこんなにたくさんお越しいただきました。

そのように海外を尋ねていろいろ意見交換をした際に、ルールのことですとか、あるいはルールブックのことですとか、用具のことですとか、海外の方たちがグラウンド・ゴルフを楽しまれる上での色々な課題というのが分かりました。

そこで、今日ご参加されましたチームの代表者の方に加えまして、日本グラウンド・ゴルフ協会の会長と、用具の販売等をなさっているアシックスジャパンの方からもご参加いただきました。今日は、そのあたりについての意見交換と、ワールドマスターズゲームズ2021にどのような取組みを行うかについて、意見を交わせばありがたいなと思っております。限られた時間ですが、どうぞよろしく願います。

副町長： ありがとうございます。続きまして、ご来賓の方よりご挨拶を頂戴いたしたいと存じます。公益社団法人 日本グラウンド・ゴルフ協会 会長様をお願いしたいと存じます。

会長様、よろしく願います。

日本 GG 会長： 皆さん、こんにちは。皆さんご存じのとおり、グラウンド・ゴルフは日本で生まれました。それは、ここにいらっしゃる町長のお父様が委員会を作られて、そして検討されました。それが、今から約30年ほど前です。それが、今や全国で360万人の愛好者がいます。そして、日本協会の会員は18万人います。それも、先ほど申し上げましたように、町長のお父様の発想があったから今日のこのような状況があると本当に感謝しています。

そういったこともありまして、町長には日本協会の顧問をお願いしております。日本のグラウンド・ゴルフがどうこれからも発展して行くかは、私どもとやはり町長がどんな風に手を組んで、これからもより良い方向に進んで行くか、そういったことにかかっていると思っております。そのような折に、こんな国際的な会議を招集していただきまして、グラウンド・ゴルフの世界の普及ということについて、こういった企画を組んでいただきましたことにも、心からお礼を申し上げます。

日本の国営放送とでも言いますか、日本放送協会という素晴らしいネットワークがあります。NHK と言っておりますけれども、ここは国際的にいろいろな放送を発信しております。先々週、私どもその取材を受けまして、来週の土曜日ですけれども国際放送でグラウンド・ゴルフが世界中に紹介されます。おそらく、世界中の方が日本で生まれたそういったいいスポーツがあるということに多くの方に気づいていただけたと思います。その様な折、皆さまがそれぞれのお国に帰られて、グラウンド・ゴルフの良さをさらにPRしていただければ、非常にありがたいと思っております。

私ども、国際化につきましては実はもう10年以上も前から取り組んでおりました。その折、問題になるのがやはり用具が手に入るかどうかということで、それぞれの国の方からそういった要望を強く受けておりました。今でも、皆さんのそういった悩みがあると思っております。

実は、町長のお父様がグラウンド・ゴルフを考えられた時に、用具の問題で全面的に協力してもらったのが、そこに2人スタッフがいらっしゃいますけれども、アシックスという会社です。2020年の東京オリンピックをサポートするために、この会社は150億円のお金を拠出しております。それほど、世界的なメーカーでありますので、皆さんの用具の不安等については、これから相談すればおそらくかなり解決の道筋をアシックスさんが作っていただけるのではないかと思っております。

日本協会は、すでに国際化に向けて10年前から取り組んでいると申しましたけれども、その国々の組織が安定的に組織化されているかどうか、それが一番これまで課題でした。

(かつての韓国、モンゴル国、ロシアの窓口を紹介) こういった方が色々と協力いただきました。今後そういった組織をどう確立していったらいいか、日本協会と連携して国際的に広めて行けるか、非常に大きな問題だと思っております。

今申し上げたことは、先ほど町長が今の課題だとお話しなされたことですので、この後の会議で十分協議していただければありがたいと思っております。それでは、この後ひとつよろしく願いいたします。

副町長： ありがとうございます。それでは、各自自己紹介をお願いしたいと思います。

町GG関係者： このグラウンド・ゴルフの開発当初から関わっています。(自己紹介) このグラウンド・ゴルフがどうやって出来たか、なぜ出来たのかそのあたりのご質問があれば私に聞いてください。現在も、この国際大会のお手伝いを地元湯梨浜町でさせていただいております。よろしく申し上げます。

モンゴル： こんにちは、皆さん。(自己紹介) 今年の夏、町長様を始め皆さんとグラウンド・ゴルフの話で巡り合いました。去年、マスターズ国際大会をモンゴルで開催しまして、そちらにマスターズ国際協会の会長がいらっしゃいまして、そこで今後の話でグラウンド・ゴルフを世界に広げようという意義で一致しました。

そして、アジアの中心であるモンゴルが、グラウンド・ゴルフのために何が出来るとかと言うと、カザフスタン、キルギス共和国、ウズベキスタンとか、旧社会主義国のドイツ、ポーランドの方達にも今話しかけているところです。

そして、グラウンド・ゴルフは年齢を問わず世界どこの人でもこのスポーツを楽しむことが出来ますので、国際化について出来るだけのことをしてしたいと思います。

自己紹介のところなのですが、今の時間がもったいないので、日本グラウンド・ゴルフ協会の会長様の話で出て来た問題点ということで、ひとつ、どこの国の連盟が安定感があるかということですが、安定感というのは、ボールなどの用具ということでしょうと思います。簡単に終わらせませんが、鳥取県湯梨浜町がグラウンド・ゴルフの発祥地になっていて、現地に来ているのでぜひこの大会を成功させていただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

ロシア： 私はロシアから来ました。（自己紹介）グラウンド・ゴルフの話をモンゴルマスターズ協会長から、1年前から聞いていました。そして、地元のロシアに戻りまして、グラウンド・ゴルフを皆さんに知ってもらおうと今動いています。

そして、今年の夏町長様とお会いしました時に、グラウンド・ゴルフに誇りを持っておられ、自分の国にもこのスポーツ競技を知ってもらおうと確信しました。

1つの問題としまして、どこの国もあると思いますが、用具の問題になって来ると思いますので、それをこの場で少しでも解決して行きたいと思います。今後ともよろしくをお願いします。

ポーランド： ポーランドから来ました。奥さんも同行されています。よろしくお願いします。

スペイン： こんにちは、初めまして。スペインから参りました。（自己紹介）今、スペインでグラウンド・ゴルフは4年目になります。日本グラウンド・ゴルフ協会長を始め、皆さん大層の方がモストレスという街にお越しいただいて、それ以来グラウンド・ゴルフが始まりました。スペイン国内ですが、現在グラウンド・ゴルフと言っても、スポーツの中でグラウンド・ゴルフという競技がどんなものかということは知られておりません。

でも、アシックス社のおかげで、現在スペインにはアシックスという名前が他にない、アディダスとかナイキとかいろいろございますけれども、現在スポーツの靴、スポーツの用具でアシックスの名前がすごく広まって来ました。グラウンド・ゴルフもおかげさまで、アシックスの用具ならば、ということで、すごくネームバリューとしても貴重な競技のひとつになって、皆さんがグラウンド・ゴルフは知らないけれどもアシックスは知っていると感じて、とってもよい感じです。

現在スペインはおかげさまで、スペイン国内でまずは市長さんにグラウンド・ゴルフというスポーツがあるということを広めています。これから、世界的にということで、日本が発祥のスポーツが、隣の国、隣の国と少しでも国際的なミーティングというものがあるとこれが大きくなって行くと思います。

日本協会を始め、町長、町長のお父様、アシックス社、どうもありがとうございます。今後ともよろしくをお願いします。

スペイン： 私もスペインから参りました。（自己紹介）現在、スペインは若者がグラウンド・ゴルフを広めております。特に、スペインは高校生10代の生徒たちからお父さん、おじいさん、おばあさんという風に、行政を中心に広めてくださいということで、私は現在スポークスマン、広報を担当しております。よろしくお願いします。

スペイン： スペイン協会から参りました。（自己紹介）よろしくお願いします。マドリードと日本とを行ったり来しておりますけれども、今回参加することが出来て大変光栄に思っております。よろしくお願いします。

アシックス社： （自己紹介）今のお話を聞いておりまして、用具のことが非常に問題だということで、そのことで動き出しておりますが、皆さまのお国での販売につきましては、各国に販売会社がございますので今社内調整を行っているところです。

ここに来ています、2名はモノづくり、開発生産を担当しておりまして、販売は各国の海外の販売会社に任せておりますので、その調整中ということでございます。

今お話が、会長さんや町長さんからありましたように、日本でグラウンド・ゴルフ

がスタートしておりますので、大部分の用具は日本で作っております。それを適切な価格で皆さまにお届けするには、日本よりは、もっといい生産基地を見つけるということも並行して進んでいます。

せっかくの会議でご意見をいただくのですが、具体的には今から進んで行くということになりますので、ご意見をいただいて今後検討して行きますので、よろしくお願いいたします。

アシックス社： 皆さん、こんにちは。同じくアシックスで用具の開発生産を担当しています。（自己紹介）ご挨拶だけさせていただきます。よろしくお願いいたします。

韓 国： 開始に遅れてすみません。河東郡から参りました。（自己紹介）会長が来ることが出来ません。会議の話をよく聞いて、今後の参考にするために来ました。

韓国（済州島）： 皆さんに、会えて嬉しいです。本来は韓国のグラウンド・ゴルフの会長さんが来るはずなのですが、昨日から公務のために今回来ることが出来なかったです。私は、済州島のグラウンド・ゴルフの会長をやっています。グラウンド・ゴルフは、1996年に日本から入りました。グラウンド・ゴルフを実際やっている人は10万人くらいで、登録された人数は5万人くらいです。

私は、グラウンド・ゴルフの会長として、町長を始め日本グラウンド・ゴルフ協会長、グラウンド・ゴルフを開発された方に対して感謝の気持ちを申し上げたいと思いますので、皆さん熱い拍手をお願いします。

私は、グラウンド・ゴルフの一員としてグラウンド・ゴルフが大変大好きです。今回の機会を借りて、私たちのこれからを着実に変えて、グラウンド・ゴルフは小学生、あるいは高校生までに広めるように努力をしていきたいと思っています。

済州島にソウルキップというところがあるのですが、ボール1個だけで夫婦、カップルでゲームが出来るようになっていきます。グラウンド・ゴルフは、これからますます発展して行くことを祈っています。ありがとうございました。

副 町 長： ありがとうございます。ここで、司会進行を町長にお願いします。よろしくお願いいたします。

町 長： 皆さん、貴重なご意見をありがとうございます。やはり、最初に用具のことが話題になりまして、アシックスジャパンの部長さんから現在の考え方のご説明をいただきました。

今回、このことはぜひ議題として話したいと思っております、実はお願いいたしまして、現在の製品のカタログをお持ちいただいておりますので、お配りいただけたらと思います。

先ほど、部長さんのお話にありました「使われるところによりよい形での供給を」という話でしたが、ひとつには国をまたぐということになりますと、通貨の価値等に問題があります。今の日本の商品の金額は、そのカタログに載っている金額です。

それで、各国の方で自分の国ならいくらくらいの商品が欲しい、例えばクラブならいくらくらいの商品だったら国民の皆さんがより買って下さるだろうというようなご意見を伺っておければ、またアシックスさんと日本グラウンド・ゴルフ協会さんとお話しただいて、購入の方法を考えていただけるのかと思っております。

会長さんから、モンゴルであればどのくらいの価格帯の商品が望ましいのかについてご意見をいただけませんか。

モンゴル： カタログを今見ているところですが、もちろん安い方がいいですけどそれは決まっているものですから。カザフスタン、キルギス共和国はこれからの国なので、今検討中です。カタログをざっと見て、価格はそんなには、思ったよりは高くないですね。平均値段が50ドルと見れば、どうでしょうか。

スペイン： スペインの場合は、スタートする人の4,500円とプロみたいに熱心になる人の15,000円という、真ん中のお値段の物がありませんね。これを作っていたら一番いいですね。

町長： ただ今のお話をいただきまして、モンゴルでは50ドルですか。

モンゴル： ひとつ質問ですが、これ(50ドル)は練習用ですか。大会でもこれを使えますか。

町長： 大会でも使えます。

モンゴル： そうすれば、一番高いものでも50ドル以下であれば普及出来るということです。

町長： 50ドルを目安にした商品の開発をお願いしたいということですし、スペインからは15,000円と4,500円の間、6,000円くらいの商品をお願いしたいということのようです。勝手に突っ走って、値段のことをいきなり協議してしまい失礼をいたしましたけれども、今後に向けてのことですので、正直なご意見を伺ってと思いましたが、失礼をいたしました。

韓国の皆さんは、どうですか。

スペイン： クラブの長さを、もう少し長くしていただきたいです。

アシックス社： 最大が普及版は85cmなので、なかなか日本人が身長は低く打てなかったのが、長くしていないです。ただ長さについては、物を作る側としては非常に簡単は簡単です。

韓国(済州島)： グラウンド・ゴルフは日本から入ってから約20年になりますが、グラウンド・ゴルフとしては国が認めたスポーツではなかったですね。生活のスポーツとして認められたのですが、今年の5月1日からは大韓民国から正式に発表されましたので、グラウンド・ゴルフはこれからもっと世界的なスポーツになるのではないかと考えています。

国が認定しているスポーツだから、補助金も出ます。

スペイン： スペインも国がスポーツとして認められて欲しいということで申請したのですが、そちらの国ではどのような申請が必要でしたか。

韓国(済州島)： 国が認めているスポーツなので、資料的にメールできちんと回答したいと思っています。

カタログを見て、用具については私たちは20年間やっておりますので、カタログの用具については問題ありません。慣れています。とても満足しております。

町長： 予めお断りしたいと思いますが、この会議は4時までには予定しておりますが、4時半から交流会という予定だったので、もう少し議論させていただきたいと思っておりますので、4時20分くらいまで延長させていただいてよろしいでしょうか。

用具のことについては、このあたりで一旦終わるといたしまして、もうひとつは事務局のこと、あるいはルールそのもののことについてお話を伺いたいと思います。

ルールブックにつきましては、基本的に湯梨浜町が2021年にワールドマスター

ズゲームズを開催したいと考えております。そのワールドマスターズゲームズというのは、東京オリンピックの翌年にやるのですが、世界で4年ごとに行われているスポーツ大会です。2021年は、日本国の兵庫県とか京都府とかそういったところを中心に、関西地域で開催される大会です。

その中で、湯梨浜町がグラウンド・ゴルフをわが町で開催したいと手を挙げています。ワールドマスターズゲームズは、ヨーロッパが発信だと思っております。トリノであったりだとか、ヨーロッパ圏の皆さんはご承知されていると思います。それに向けて、毎年何カ国語か日本協会のご指導をいただいたりしながら、それぞれの国のルールブック作りを進めて行きたいと考えておまして、今回で言いますと、モンゴル語のものは日本協会が作っておられましたので、それを入手しておりますのでお渡し出来ますし、ポーランドやロシアの分についてはこれから県などのご協力をいただきながら町で原版を作ってお配りしたいと思っております。スペイン語についても同じようにしたいと思っております。ルールブックについては、そういう形で解決したいと思っております。参加された国については最低限、間に合えば大会前に作りますし、そういうふうに行くと行くということをお願いしたいと思っております。

それから、訪問してお話しした中で、ルールの内容について例えばホールインワンした時に打数をマイナス3する、というのはない方がいいのではないかなどのご意見がありました。それはそういうことをすればグラウンド・ゴルフではなくなる、みんなが楽しめるものにするには必要だという説明をしてご納得いただいた経過がございます。そのことについては、引き続きご理解をお願いしたいと思います。

ス ペ イ ン : ルールの件というより、その前にグラウンド・ゴルフについてのモニター、しっかりした指導者そういったものの育成も必要だと思います。それには、私も一度参加させていただきましたけれども、あそこまで難しい技術がなくても、韓国は韓国で、モンゴルはモンゴルで、スペインはスペインである程度共通したモニターがないと、教示をするというモニターなのですが、コーチみたいなものです。基本的に、知っている人を育成して行かないと、ルールと言っても勝手にルールがあっちの方に行ってしまうんじゃないかと思うんですね。国際的に、サッカーのようにグラウンド・ゴルフもいつかはなると思うので、一番大切な人というのを何とか作っていただいた方がいいと思います。

町 長 : ひとつは、ちょうど今町の方で制作中ですが、グラウンド・ゴルフそのものを競技しながらルールにも触れて行くようなDVDを制作中です。150万円をかけまして、「潮風の丘」で今はやりのドローンを飛ばして撮影しながら、グラウンド・ゴルフのルールを紹介したり、湯梨浜町を紹介するDVDを今作っておりますから、それとルールブックを重ねて見ていただければ、相当ご理解いただけるものが作れると思っております。ちょうど、この間発注したところでして、年度末までには出来る予定にしておりますから、出来次第皆さまのところにお届けしたいと思っております。

今おっしゃった指導者の養成につきましては、実は日本協会がもちろんやっておられます。そのあたりもまた相談しなければなりません。湯梨浜町でもグラウンド・ゴルフの国際大会をやって行くのに国際的な組織のようなものを立ち上げてはどうかというご意見もありまして、それから濟州島にも絡みがあるのですが、ウォーキングの

関係でウォーキングカレッジのようなものを考えられる方もありまして、それと合わせる形で健康カレッジというグラウンド・ゴルフとノルディックウォークと両方の指導者の養成のカリキュラムも実際上出来るようなものを作りたいなど温めているところです。また、皆さんに相談したいと思います。

日本 GG 会長： 指導者の問題について、お話ししたいと思います。日本には、スポーツ団体がたくさんありますけれども、そこを指導する日本体育協会というものがあります。この団体は、国民に正しくスポーツを普及するために資格を持った指導者を作るということが大原則としています。

グラウンド・ゴルフ協会も、最終的には日本体育協会の資格に取得できるようなカリキュラムを編成しています。ですから、単にグラウンド・ゴルフのルールだけでなく生涯スポーツの考え方であるとか、健康安全の問題であるとか、指導法の問題であるとか、たくさんのカリキュラムを組んでいます。

これは、日本協会の事情ですけれど、今皆さんから出たご意見を踏まえると、ルールのみならず指導法であるとか、グラウンド・ゴルフの考え方がどういったものであるかという理念的なことだとか、そういったことについては、何か簡単なものを作ってお示しすることも必要な、そういうふうに思いました。

幸い、湯梨浜町でそういったことも含めて、これからいろいろな映像等の教材も含めてご検討いただいているようですから、日本協会も湯梨浜町と一体となってお要望にお応え出来るような方策を考えたいと思います。

町 長： いかがですか、今お配りしたパンフレットは。これは、鳥取県がこのたびの大会に合わせて作ってくれたものです。私たちの訪問の成果の一つでもあります。

韓国（済州島）： 私たちの協会に指導者がいますけれども、ホールインワンに対して、15m、20m、30m、50mに対しては、全く同じ点数をあげますと私たちに対して言っていました。

町 GG 関係者： グラウンド・ゴルフのコースですが、15m、25m、30m、50mこれが2ホールずつ8ホールで1つのコースですけれども、短いコースでも長いコースでもホールインワンされたらマイナス3。日本ではそうやっていますね。

韓国（済州島）： これは、日本と韓国は一緒ですが、距離によって差をつけたらどうですか。これについては、どう思いますか。

町 GG 関係者： マイナス1にするとか、2にするとかですね。日本でもそういったご意見がありますが、マイナス3で統一しましょうと指導しています。

町 長： この発想は、私の想像ですけれどグラウンド・ゴルフは誰でも出来るというのが特徴ですから、その辺を複雑にしない方がみんな安心して楽しめるのではないかと思います。

鳥取県： 鳥取県庁スポーツ課から参りました。（自己紹介）よろしく申し上げます。皆さまのお手元に、多言語版でグラウンド・ゴルフのプレーガイドということで、今回作成したものをお配りしました。

これは、もちろん今のルールに則って日本グラウンド・ゴルフ協会さんの監修もいただきながら、グラウンド・ゴルフがどういうスポーツなのかということ、初めての人

でもどんなふうにプレーしたらいいのかということイメージしていただけるような形に作っております。

明日、早速プレーされる皆さんにお配りしたいと思っております。それだけでなく、今回お越しいただいたプレーヤーの皆さんに各国で広めていただけるように、1人一部だけでなく必要な部数をお持ち帰りいただければと思います。

今回、国際大会への参加国を見越して、ひとまず日本語、英語、韓国語、モンゴル語、中国語、台湾語の6つを準備いたしました。ところが、予想外にスペインやポーランドからお越しいただいたので、このあたりの対応は少しこの後考えて行かないといけないと思っております。明日、小さいサイズなのでポケットに入れてプレーしていただければよろしいのではないかと思います。よろしく願いいたします。

町長：時間が進むのが早く、元々1時間に設定したのが誤りだったのですが、その他特におっしゃりたいことがありましたら。

モンゴル：2021年のワールドマスターズ大会に向けて、グラウンド・ゴルフ国際協会を作ることと、ルールの話も合わせて、どんな話でも賛成です。そして、大きな大会に向けてDVDだとか、競技のために教育の部分で少し力を入れた方がよろしいと思います。

ルールに関して、30mと50mとメーター数が長い方のホールインワンの場合マイナスもいいのですが、15mと25mでは1回で入れる人が多いので、ホールインワンのマイナスはなくてもいいですね。それは、モンゴルの意見としまして、他の多くの皆さんの意見もありますから、自分の意見として聞いてください。

町長：ありがとうございます。たぶん、会長さんはお上手だからそう思われたんじゃないかと思いました。

その他にも、いろいろとお話したいことがございました。ひとつは、大会の開催時期ですけれども、ワールドマスターズゲームズは2021年の5月に開催されるということが決定いたしております。正式に、グラウンド・ゴルフが湯梨浜町で開催されるというのは10月26日頃には発表になると思っております。

来年のこの大会を5月にすると期間が短いので、他の国に働きかけることがなかなか出来ませんから来年は10月に開催しますが、再来年からは5月に開催させていただきたいというふうに考えています。

それから、湯梨浜町とだけ交際されなくても相互の国で交流されることも必要だと思いますので、全体の大会を含めましてご参加いただきましたチームの所在、協会名、協会長さんのお名前等を情報として皆さんにご提供したいと思っておりますが、よろしゅうございますか。

それで、グラウンド・ゴルフを通じた交流も深めていただきたいと思いますのでございます。

それでは、悪い進行でございましたけれども、ご容赦ください。また、近いうちに話し合える機会があることを祈っております。本日は、ありがとうございました。